

講義名	スポーツ科学演習 A（レクリエーション・バドミントン）				授業形態
担当教員	伊藤 淳	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時間		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
主題と概要					
本科目は、全学共通科目における教養科目の健康スポーツ科学分野の 1 つである。 現在の日常生活は、非常に利便性が高まっているが、一方で身体活動量が著しく減少する傾向がみられる。その結果、生活習慣病の発症が増加している。そのため、日常生活の中で意識的にスポーツを実施し、生涯にわたって健康の保持・増進につとめる必要性が高まってきている。また、我が国は、週休二日制の導入などにより自由時間が増大してきており、それらの時間をスポーツやレクリエーションに費やそうとする人々が増えてきている。 本科目では、レクリエーション科目とバドミントンを実施することで、生涯にわたって積極的なスポーツの参加につながるような授業を展開する。 授業では、科目のルールや技術の習得・上達に向けて、受講生自らが課題を発見し、解決ができるように取り組んでもらう。そして、現状を正確に把握し、解決に向けた具体的な段取りを明らかにできるようにするために、物事に対して、自ら進んで行動を起こしてもらいたい。					
到達目標					
1. 「健康」獲得の方法を修得できるようにする。 2. 歴史やルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようにする。 3. 応用技術・基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようにする。					
提出課題					
授業時に指示をする。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
授業時に、講評をおこなう。					
評価の基準					
※授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。 ※授業中の評価：授業態度・実技点など・・・・・・・・・80% ※期末期の評価：レポート課題・・・・・・・・・20%					
履修にあたっての注意・助言他					
・授業には、運動に適した服装およびシューズを着用すること。 ・積極的に楽しみ、けじめある態度で授業に参加すること。 ・天候によって授業計画の変更がある。 ・授業計画は学習内容をより充実させるために、受講者の技術度、習得度に応じて変更することがある。 ・授業前・後には必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。					
教科書					
.使用しない。.					
参考図書					

その他

授業中に適宜資料を配布する。

授業計画

1. ガイダンス

2. レクリエーション グラウンドゴルフ① ゲームの進め方の理解、ボールの打ち方。

3. レクリエーション グラウンドゴルフ② ゲーム①

4. レクリエーション グラウンドゴルフ③ ゲーム②

5. レクリエーション ディスクゴルフ① ゲームの進め方の理解、ディスクの投げ方。

6. レクリエーション ディスクゴルフ② ゲーム①

7. レクリエーション ディスクゴルフ③ ゲーム②

8. レクリエーション、バドミントンの歴史、ルール、ゲームの進め方の確認

9. バドミントン 基礎技術（サービス、クリアー）

10. バドミントン 基礎技術（ドロップ、ヘアピン）

11. バドミントン 基礎技術（ドライブ、スマッシュ）

12. バドミントン 基礎技術 総合練習①

13. バドミントン 基礎技術 総合練習②

14. バドミントン 基礎技術 総合練習③

15. まとめ（課題提出）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	☐ カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習（2 時間程度）

授業で実施する科目、技術について、ルールブック等を用いて事前に調べること。
課題をクリアする方法を考え、まとめておくこと。

復習（2 時間程度）

授業を振り返り、反省点、課題を整理すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目を受修し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができます。

集団や個人でスポーツ実践へ取り組み中で、明るく元気で、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ のびのび へたれたす」の精神を育むことができます。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。

生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。

以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考